

銃創、爆傷等における外傷医療体制の構築に関する研究

研究分担者 木村 昭夫 国立国際医療研究センター病院 救命救急センター長

研究要旨：

銃創・爆傷患者診療指針を作成し、日本外傷雑誌（電子ジャーナル）に掲載した（ダウンロード無料）内容については、Ⅰプレホスホスピタルケア、Ⅱ銃創患者の院内診療手順（初期診療、弾道学の基礎、頭部銃創、頸部銃創、胸部銃創、腹部銃創、四肢銃創）、Ⅲ爆傷患者の初期診療について、アルゴリズムや問題点を解説し、その内容を公開しパブリックコメントを募集した。さらに内容を要約し、医療従事者以外にも分かりやすくしたパンフレットを作成し、日本救急医学会学術集会などで配布した。さらにパンフレットの最後に上記電子ジャーナルのWeb ページ行く QR コードを付けた。

A. 研究目的

世界的にテロの発生件数は急激に増加し、2014年には年間17,000件を越えている。ここ20年間、わが国では大規模なテロは発生していないが、日本国民をターゲットとしてテロ行為を行う可能性は存在する。このように、現在の国際情勢や国内での東京オリンピック・パラリンピック2020など重要国際イベントを控え、テロ発生に対する医療者の備えが必要である。しかし、わが国に銃創患者・爆傷患者診療の経験がある医師は非常に少ないことから、診療手順を整理した診療指針を策定・普及させ、この弱点を少しでも解消しておく必要がある。本分担研究に付託された目的は、銃創・爆傷患者に対する診療指針の作成とその知識の均霑化である。

B. 研究方法

前年度に作成した。銃創・爆傷患者診療指針が外傷の専門家医師向きであったため、要約を医療従事者でない人も理解できるようにパンフレットにまとめること。

（倫理面への配慮）

2次資料のみを用いた研究であり、倫理面で特記すべきことはない。

C. 研究結果

昨年度試作したパンフレットをたたき台として、A6版とし、医療従事者でないボランティアでも理解できるように改良を重ねた。具体的には、見出しや図表、赤字で示



した文章を読むだけで、概要を把握できるようにした。左にパンフレットの1ページ目を示す。内容は、銃創・爆傷の病院前救護や初期診療を中心とし、図表も分かりやすいものにした。全6ページの見開きとし、パンフレットの最後に銃創・爆傷患者診療指針を全ページダウンロード可能なWeb SiteにアクセスできるQRコードをプリントした。パンフレットは2000部作製した。

D. 考察

昨年度試作したパンフレットより。格段に見やすいものとなり、医療従事者以外のボランティア等にも理解しやすいものとなった。日本救急医学会学術集会等でも配布したが、受取った医師からは好評であった。

E. 結論

銃創・爆傷患者診療指針を要約し、医療従事者以外にも分かりやすくしたA6見開き6ページの簡易パンフレットを2000部作成し、最後のページには上記指針のWeb siteを開くQRコードを付けた。

F. 健康危険情報

G. 研究発表

1. 論文発表

・銃創・爆傷患者診療指針. 日本外傷学会雑誌 32巻3号, p. Ver1-1-63, 2018.

2. 学会発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし